

文庫
 双
 子
 傳
 記

~~D~~
 1030

逍遙文庫
 文庫 6
 973



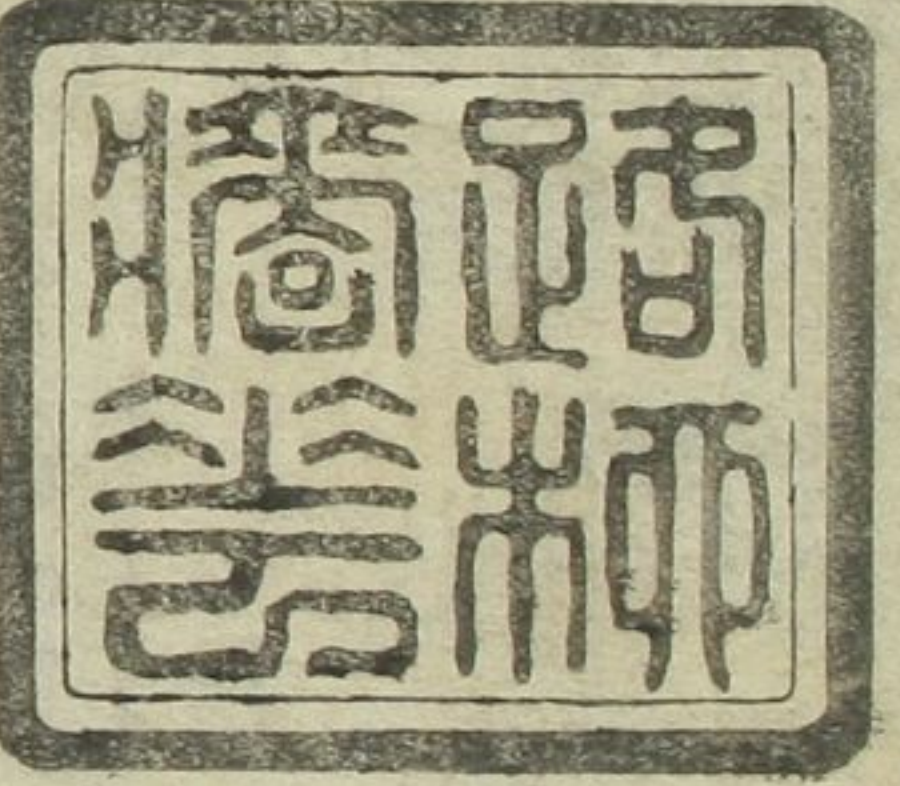
文庫6
973



山東京傳作戊辰新刻

濡髮放駒全傳

位俠雙蛺蝶



全部九冊發兌

歌川豊國画甘泉堂梓

位俠雙蛺蝶全傳小引

江戸芝神明前和泉屋市兵衛版

康安貞治の頃。吾妻うけたま山崎与次兵衛と云ふ。或ハ幡山史可
南与兵衛のおも。我子つりゆり金とせせと。うひ傳へ。曰挽哥ゆめつて
遠き昔とちる。その跡とたつて寛延の頃竹田出雲が作りたる。淨瑠璃
節以種として菜の花の黄表紙とるるといふ。都是寓言ホして。莊子が
たとの二つ蝶。人折る。橋のたの。花小中らとてまごしてた。吾妻顔
も見忘れたる。駕籠の座兵衛が。親子再会のむらし。蝶ハ菜種
の阿字十方。菜種ハ蝶の三世仏。迷入暗悟ハ月三世因果と引幽の
あけたてふ迷悟とつら。十字兵衛が母の談義話ハ集て。春雨の
柳濡髪ハつるれまらる。放駒。俄然とて覺則邊。然として蝶二の
夢の浮世ハ曉。ふもの。畢竟筆のまらる。たりけり。

文化四年丁卯六月
稿成同五年戊辰發兌

山東京傳述





二二二二二



人生芳機
有千載
在 上榮古
无百年

水筒の
控手
あつら
あつら
あつら



十字
兵衛の
毒
宮兒

○ 南方十字兵衛



判樹有
花兄弟
梁橋林
无実子
孫忙

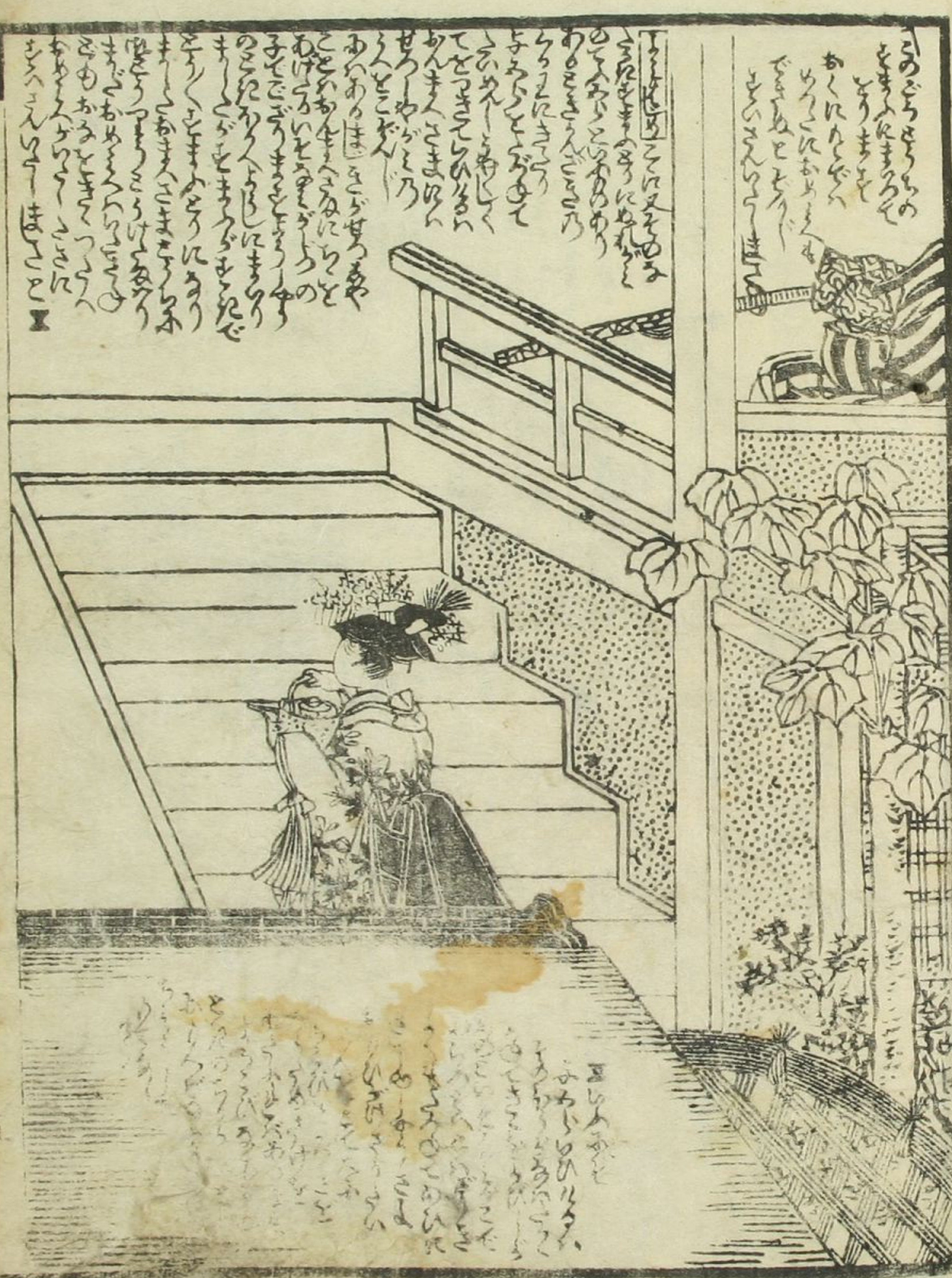
駕籠之

座
兵衛



人
うと
権子
とら
り
た
の
あ

○ 蝶吉姉於因



あつちのうらら
さきまにまはる
のこころはなほ
あつちのうらら
さきまにまはる
のこころはなほ
あつちのうらら
さきまにまはる
のこころはなほ
あつちのうらら
さきまにまはる
のこころはなほ

あつちのうらら
さきまにまはる
のこころはなほ
あつちのうらら
さきまにまはる
のこころはなほ

あつちのうらら
さきまにまはる
のこころはなほ
あつちのうらら
さきまにまはる
のこころはなほ



あつちのうらら
さきまにまはる
のこころはなほ
あつちのうらら
さきまにまはる
のこころはなほ

あつちのうらら
さきまにまはる
のこころはなほ
あつちのうらら
さきまにまはる
のこころはなほ

松知

平岡
堂右衛門

あつちのうらら
さきまにまはる
のこころはなほ
あつちのうらら
さきまにまはる
のこころはなほ

あつちのうらら
さきまにまはる
のこころはなほ
あつちのうらら
さきまにまはる
のこころはなほ







早稲田大学図書館

011688991430